



東大准教授に教わる「人工知能」って、そんなことまでできるんですか？

「常識」が反転する、ロボット社会への展望とは？政治、経済、教育、医療、労働…。人工知能の権威が率直な疑問に対談形式で答えながら、人工知能の最新線や将来性、面白さを語る。

松尾豊・塩野誠著 (KADOKAWA)



児童書 ぼくのたいせつなぼうし

(3～5歳向け)

旅のとちゅうで帽子をなくした雪だるまのクル。スノーぼうしは自分の大切な帽子を貸してあげました。だけど、なかなか返してもらえなくて…。みんなで分かち合うことの喜びを伝えてくれる絵本。

ヒド・ファン・ヘネヒテン (フレーベル館) 作

図書貸出冊数を増やします

12月2日(火)より、貸出冊数を次のとおり変更します。

ご家庭での読書活動には、本町図書室をぜひご活用ください。

品目	新	旧
図書・雑誌	12点	6点
紙芝居	5点	2点
VHS・DVD	1点	1点
CD	1点	1点
カセットテープ	2点	2点
貸出点数	各種あわせて12点まで	各種あわせて12点まで

▶問合せ 社会教育センター図書室 28・5449

豊山俳句クラブ

青山克己選

秋立つや空どこまでもがらんだう
田村多喜子
億といふコスモスの中にある私
高木須磨子
風そしてひかりと億の秋桜
坪井昭子
ひもすがら吹かれてをりし秋桜
岡島 齋
いっせいに刈田となりて風のくる
杉浦みどり
天界の花となりたる曼珠沙華
小塚美枝

石黒貴代子
黄葉して一灯となる谷の村

衿替えの秋を迎ふる美しく
杉本 衿子
秋澄みて色なき風の通る道
坪井 径子
峠道柿また柿のつづら折れ
安藤 春一
満月に己自身を写しけり
青山とも子
これからのこと余生かな鯛雲
村上ゆり子
なほ深くかかはる秋の草を刈る
青山克己

豊山歌壇

水野笑子選

朝まだきうつらうつらと父母の夢
柴田満枝
奥入瀬は森の女神がある如く
鈴木久子
ブナの林は生命あふるる
鈴木弘香
あの虫が大きな蝶に変身す
鈴木 弘香
神秘の一瞬虫かこの中
水野勝代
逝き急ぐ黄泉への路は混雑か
水野勝代
盆前の姉の死が気掛り

水野恵子
手の甲に皺と変形せし指に
刻み込まれし我の年輪

戦時下を思ひ出ださず言葉なり
山田 米
新大関の大和魂
ふるさとの山や小川のせせらぎに
渡辺トヨ子
風情ある景いつの世までも
中澤 芳子
打ちかかる飛沫をあびて島めぐる
村上一枝
ほどここの水と光の有り難み
年毎に知る自然の力
林 たよ
妹から送り来し饅頭は甘き物
我が口に合はず冷蔵庫にありぬ

編集後記

「電車で席を譲って断られた経験はありませんか。なぜ断ったのか、その理由を聞いたことはありますか」▼NHK手話ニュースでも活躍している手話通訳士・中野佐世子さんの講演を聴いた。中でも印象に残っているのは、「水は低きに流れる」という一言。人は常に意識を持っていないと安きに流れてしまうという言葉だ。想像力を養うこと、正しい知識を持つことの大切さを学んだ▼例えば、炎天下で長い列に並んでいるとき、車いすの人が優先的に入場したらどう思うか。幼い子どもも並んでいるのにうらやましいと思うかもしれない。車いすの人の中には、自律神経を損傷した人もいる。自律神経を損傷すると、汗をかけるなくなり、長時間炎天下に居ることは生命にかかわる▼ホテルの最上階にある夜景が自慢のレストランに、目の見えない客がいらいらした。あなたが店員なら、窓際の席をお勧めするか。正解は、必ずどの席がよいかわねて聞いてほしいというものだった。講師が聞いた何人かの方々は、口をそろえて、「窓際の席を望んだそう。そして、何がどのように見えるか少しでも話してほしいというのが思いだ▼一度座ると、自力では立てなくなってしまう人もいる。そんな人の中には、電車に乗ると、席を譲られたときに断るのがつらいため、声をかけられないようにドアの近くでじっとうつむいて立っている人もいそう▼十二月三日から九日は障害者週間である。安易に決めつけず、想像すること、そして聞くこと。意識の持ち方を少し変えることが、お互いに住みやすい社会につながる。